

令和6年度 学校図書館活用推進事業実践報告

新潟市立亀田西小学校

1. 図書館利活用の実態

「読書センター」としての図書館利用については、2020年度より感染防止のために休み時間の図書館利用が制限され、それまで100冊以上を保っていた年間貸出数平均がその年は85冊まで減少した。3年後に休み時間の図書館利用は緩和されたが、その間、各クラスの図書館配当の時間に担任の引率で図書館を利用し図書の貸出・返却・読書をすることは定着したものの、「休み時間に図書館に行く」「自分で返却日を管理する」という児童の習慣づけをすることができなかった。

「情報・学習センター」としての図書館活用については、学習にタブレットが導入されたことにより、インターネットを利用しての情報収集の機会が増え、図書資料の利用とICT機器の活用をどう組み合わせるかで試行錯誤が続き、図書資料借用の依頼も減少傾向にあった。資料提供のほかに、図書館を学習活動でどう活用していくかが課題となった。

以上を踏まえ、図書館教育計画を毎年少しずつ修正し、「本を進んで読もうとする態度を育てるとともに、図書館を学習に活用する力を高める」を今年度の図書館教育の指導重点に定め、学校図書館活用推進校の指定を迎えた。

2. 小中9年間を見通した探求学習技能指導

今回の図書館活用推進事業の柱の一つが「小中連携」ということで、事前説明会で中学校区の図書館教育部で話し合い、小中9年間を見通した探求学習技能目標を立て、目標を意識した授業を各校で実践してみることとした。

1) 「探求学習技能教育 亀早モデル」(別紙)の作成

今回の取り組みにあたり、感染対策と司書の異動により中断していた中学校区の司書の情報交換会を再開した。

6月、亀田西小学校で開かれた司書の情報交換会において、各校の図書館利用や読書の状況を共有し、低学年・中学年・高学年・中学でそれぞれ身に付けておきたい探求学習技能の一覧を、全国図書館協議会の「情報資源を活用する学びの指導体系表」(2019年1月)を参考に作成した。これを「亀早モデル」とし、自校に持ち帰って各校の実態に合わせて変更を加え、校区の教育目標を達成するために自校の指導の重点を設定した。

2) 「亀早モデル」を意識した学習活動

亀田西小学校では、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」についてそれぞれ児童の実態を教職員に聞き取り、「亀早モデル」と照らして、指導の重点を「課題に対して自分なりの考えをもって探求に取り組む」「情報源の種類や基本的な利用法について理解し、課題解決に適した情報を収集できるようになる」と設定し、各学年の目標を意識した活動を授業の中に入れてんでもらえるよう依頼した。

以下にその実践を紹介する。

① 2年生 生活科「ぐんぐんそだて わたしの野菜さい」

【重点を置いた探求学習技能】

情報の収集 ◎情報の集め方を知る（図書資料，図鑑）

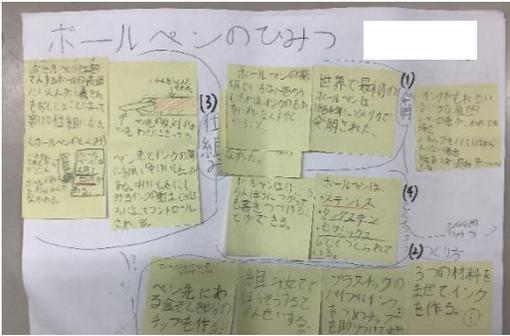
活動内容	探求学習技能
① 1年生時に育てたアサガオ栽培の体験から，野菜の育て方を予想する。	
② 種から育てたアサガオと，苗から育てる野菜のちがいを調べ，確認する。	情報の収集（図書資料，図鑑）
③ 自分が育てる野菜を探し，育て方を調べる。	情報の収集（図書資料，図鑑）
<p>【実際の活動】</p>  <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ お店で売っている野菜の姿は知っているも，どのような育ち方をするのか知らない児童が多く，資料の写真やイラストで育ちの様子を知ることができ，「野菜を育てたい」という意欲付けになった。 ○ 2年生の児童にとっては，インターネットでの情報量は多すぎる。図書館資料で児童に見てほしい情報をピンポイントで与えることができ効果的だった。 	

② 3年生 国語科「道具のひみつをしょうかいしよう」東京書籍下

【重点を置いた探求学習技能】

情報の収集 ◎情報の集め方を知る（図書資料，図鑑）

まとめ・表現 ◎探求したことを相手や目的に応じた方法でまとめ，発表する

活動内容	探求学習技能
① 国語の教材で学んだ説明文をもとに，自分で選んだ道具について，その使い方や作り方を調べる。	情報の収集（図書資料，図鑑）
② 調べた秘密を整理したり，文を書く順番を考えたりする。	整理・分析（情報カード）
③ レポート「道具のひみつブック」を作る。	まとめ・表現（文章，冊子）
<p>【実際の活動】</p>  <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ インターネット上の情報は，児童が理解しがたいものが多いため，図書館資料は安心して学習に活用することができた。 ○ 学習に用いた本は，子ども向けに分かりやすく書いてあるものも多く，レポートに必要な情報を自力で見つけることができた。 	

③ 4年生 国語科「工芸品のみりよくを伝えよう」光村図書下

【重点を置いた探求学習技能】

情報の収集 ◎情報の集め方を知る（図書資料，図鑑）

まとめ・表現 ◎探求したことを相手や目的に応じた方法でまとめ，発表する（ロイロノート・冊子）

活動内容	探求学習技能
① 教材文「未来につなぐ工芸品」を参考に，自分が興味をもった日本各地の工芸品について調べる。	情報の収集（図書資料，図鑑）
② リーフレット形式の作り方に倣い，ロイロノートで1ページずつ，興味をもった観点別にまとめる。	整理・分析（ロイロノート）
③ 製本し，互いに読み合い，感想を伝え合う。	まとめ・表現（リーフレット）

【実際の活動】




【成果】

- 教科書教材が変更された年であったが，これまでの教材文と内容が似ており，図書館にある本を十分に活用することができた。本を新たに購入する必要もなかった。児童は，興味をもった工芸品を図書館資料から探し，その特徴や良さを観点別に読み手が分かりやすくまとめることができた。
- ネット上にある情報ではなく，図書館資料を活用する良さを実感することができた。観点別の目次，資料の美しさ，分かりやすい説明文など，図書館資料の良さに気づき，自分で作るリーフレットに活用していた。

④ 6年生 総合的な学習の時間 大好きにいがた「ふるさとに生きるわたしたち」

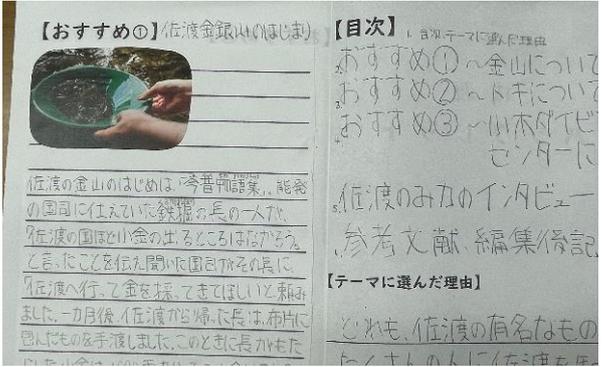
【重点を置いた探求学習技能】

情報の収集 ◎情報の集め方を知る（図書資料，図鑑）

まとめ・表現 ◎探求したことを相手や目的に応じた方法でまとめ，発表する（パンフレット）

活動内容	探求学習技能
① 佐渡を4つの分野（自然・産業・歴史・伝統）に分け，調べる。	情報の収集（図書資料，図鑑）
② 調べたことをパンフレットに書く。	まとめ・表現（パンフレット）

【実際の活動】

【成果】

- 信頼できる情報を何度も見返すことができ，パンフレット作成の質を高めることができた。
- 図書館資料には，児童も読みやすい内容が多く，学びを自己完結させることができた。

3. 読書センターとしての学校図書館

下火になってしまった休み時間の図書館利用を促進するため、「図書館に行く」ことを促す工夫、またそこから「本を借りる」ことにつなげる工夫を考えた。

1) 「図書館に行こう！」と思わせる工夫

① ライブラリーポイントカード

休み時間に本を借りるとポイントが貯まり、ポイントに応じて景品がもらえるポイントカードを導入した。景品は「5冊貸出券」「新刊先取り券」「しおり」の三種類用意した。その結果休み時間の自発的な来館と本の貸出が増えた。ポイントカードは学年を跨いで使えるようにし、進級によって意欲が途切れないようにした。

② 「わくわく図書館デー」

毎月0のつく日を「わくわく図書館デー」とし、カレンダーに丸を付け、当日は図書館の入り口にポスターを掲示した。本を普段より多い冊数借りることができ、ポイントカードの押印も3倍に増えるため、この日を狙って休み時間に来館する児童が増えた。

③ 曜日・時間を決めた新刊開放

新しい図書を新刊棚に月曜日に置き、貸出を金曜の中休みからとした。曜日と時間を決めて新刊の開放を行うことによりイベント性が増し、金曜日の休み時間の来館人数が増えた。

2) 「本を借りて読んでみよう！」と思わせる工夫

① 司書による読み聞かせ・授業関連ブックトーク・新刊紹介

低学年は図書館配当の時間の最後に季節行事や学習单元に関連した絵本の読み聞かせを毎時間実施した。中・高学年には授業に関連したブックトークを実施したり、新しく図書館に入った本を紹介したりした。本の概要がわかると興味をもって手に取ってくれる児童が多くなった。

② 昼読書・読み聞かせボランティアによる昼の読み聞かせ

昼のモジュールの時間を使って、週に一度昼読書を実施した。また地域の方を中心としたボランティアにその時間を使って読み聞かせやブックトークをしてもらっている。読み聞かせやブックトーク後に紹介された本を図書館に借りに来る児童が多くなった。

③ 50冊・100冊達成者の表彰

50冊借りるごとに葉をプレゼントすることに加え、今年度より図書館前廊下の掲示板に「読書の樹」を設置した。掲示板に貼り付けた樹に、貸出100冊を達成すると自分の名前の書かれた実が実るため、本を読んだ冊数を視覚的に実感でき、達成感をより味わえるようにした。

④ 図書委員会による読書週間・旬間の開催

図書委員会の今年度の活動目標は「年間を通じて本を紹介して、みんなに本を愛して明るく楽しく読んでもらう」である。

通年活動として、「図書委員会おすすめの本」コーナーを設置して各月のテーマに沿った本の選定・展示を行った。

読書週間・旬間では、活動目標に基づいたイベントを企画運営した。

○読書ビンゴ … 読んだことのない本と出会うきっかけになるよう、普段あまり動かない分類を中心に作成した。

○おはなし総選挙 … テーマに沿って選んだ本を図書委員が全校に向けてポスターと放送で紹介し、どの本が一番面白そうと感じたか全校投票を行った。選挙後は候補となった本がよく借りられるようになった。

4. 学習・情報センターとしての学校図書館

「亀早モデル」に即した授業実践において、授業で図書館や図書館の所蔵資料を利活用してもらうことができた。さらに、学校図書館と学校司書の利活用として、以下に取り組んだ。

1) 図書館オリエンテーション

年度初めに全クラスで実施。各学年に応じた図書館の利用方法を司書が解説した。

1年生 … 図書館のきまり、本の借り方返し方

2年生 … 図書館のきまり、日本十進分類について（通年）

中学年 … 図書館のきまり、日本十進分類について、請求記号について

高学年 … 図書館のきまり、日本十進分類について、図書館の本の探し方（レファレンス/OPAC）

PDFで「図書館のしおり」を作成し、事前にロイロノートで送信、それをもとにオリエンテーションを進めた。資料箱にも入れておき、いつでもオリエンテーションの内容を確認・復習できるようにした。

2) 担任と司書の連携による授業の実施

前年度の図書館活用実績をもとにした「学校図書館活用計画」を参考に、担任から図書資料の借受や資料の利用方法の解説の依頼を司書に出し、司書は学習のねらいや指導内容について担任から話を聞き、図書資料の準備や効果的な解説方法を考えた。

例1) 1年生「目次の使い方」指導

1年生国語の「はたらくふね」の単元の初めに、図書館で司書が目次の使い方の説明をした。タブレットを使い、ロイロノートの画面配信で実際の図鑑の目次を見ながら、説明を聞くだけでなく視覚的に理解できるように工夫した。その後は実際に図鑑を手にとって目次を使ってみた。

説明の中で、「図書館は本を読んだり借りたりするだけではなく、本を使って知りたいことを調べることができる場所である」と伝え、休み時間に図書館にやって来て、自分の好きな動物や植物を図鑑で調べて自由帳にまとめる姿が見られた。

例2) 5年生「本の紹介ポップ講評」「ブックトーク実演」

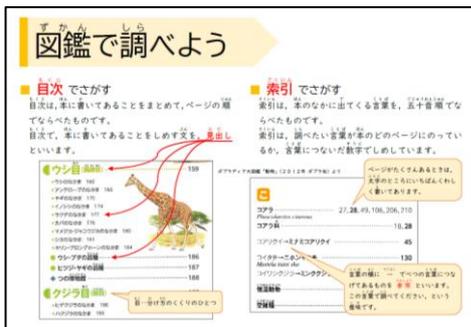
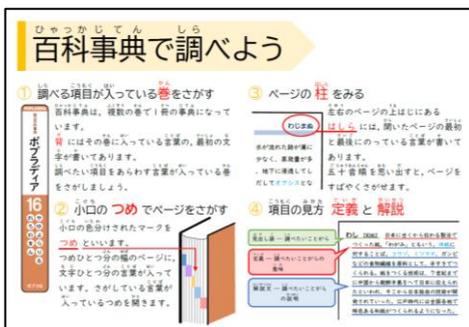
国語「注文の多い料理店」の単元で作成した紹介ポップを担当が司書に渡し、司書が講評し工夫が見える点や改善点を伝え、修正したあと全員分を図書館に掲示し、宮沢賢治作品と一緒に展示した。

同じく国語「本の世界をひろげよう」の単元では、図書館で活動を行い、司書が読書マップを作るための本と本を繋ぐコツやヒントを出した。その後のブックトーク作成でも、司書がブックトークの作り方を解説、実演した。

3) 館内掲示による探究活動促進

すでに掲示していた日本十進分類表やシンキングツールの使い方に加えて、授業で参考図書の使い方を解説した際の資料を簡略化したものを、参考図書の棚上に設置した。

1年生でも図鑑や百科事典を手取るようになり、既習の児童も参考図書の使い方を復習しながら調べものができるようになった。



5. 取り組みを終えて

学校図書館活用推進事業の2回目は、コロナの感染対策による利用制限から始まり、学校図書館が元の在り様を取り戻すための取り組みが核となった。

図書館の来館動機を促し本に興味を持ってもらうための工夫を通して、「読書センター」としての機能は、コロナ禍前まで回復できたように思う。また、本を借りたり何かを調べたりしなくても、休み時間を過ごす場所として図書館に来る児童も増えた。今後はこれまでの取り組みを維持しつつ、さらに読書の意義を児童や家庭に広められるような施策を講じていきたい。

GIGAが始まってから模索していた「情報・学習センター」としての学校図書館の在り方も、オリエンテーションや授業支援にタブレットを活用したり、インターネット利用に即したレファレンスや情報活用支援、資料検索支援をすることで、形になってきた。さらに事例や成果を積み重ねていきたい。

また今回、小中連携という視点が入ったことで、小中9年間を見通した探求学習技能目標を中学校区で共有することができた。今回の実践だけで終わらせず、中学校区の児童生徒が一定の探求学習技能を身に付けてその先に進めるように、継続して取り組みたい。